

【国語科】

国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

国語科のめざす子ども像

自分の思いや考えを伝え合うことができる子
そのために

国語科経営の重点

読解力・表現力を育てる

文学的文章や説明的文章において、文章構成や述べ方の工夫、文章の内容や作品に込められた思いなど、書かれていることを正しく読むとともに、自分の考えをもつ力が読解力である。自分の読み取ったことを音声言語や文字言語を使ってお互いに伝え合うことを通して、必要な表現力も育てられると考える。

言語の基礎的・
基本的な知識・
技能の向上

子ども主体の
学習をめざす
単元学習による
授業の展開

興味・関心を高
める国語環境の
充実

館山小 国語学習を支える3つの柱

国語学習を支える3つの柱

【柱1】子ども主体の学習をめざす単元学習による授業の展開

1 本校で捉える単元学習とは

本校で捉える単元学習とは、子ども主体の学習をめざすものである。子ども主体の学習は学習課題に対して目的や必要性を感じながら学びに取り組むことだと考える。また、生涯にわたって学び続け自己を高めていくために必要な資質の育成につながると考える。

2 単元を組むための視点

子ども主体の単元を組むために必要な6つの視点

①学習過程の明確化、②言語活動の種類や特徴の明確化、③系統性の重視、④伝統的な言語文化の重視、⑤読書活動の充実

3 子どもの実態・付けたい力によって変わる単元構成

単元を組むまでの流れを設定している。まず、子どもの実態を把握し、子どもに付けたい力を明らかにしてから、言語活動及び学習材を設定し、単元を構成していく。

4 子ども主体の学習を支える国語学習

(1) 文章構成を学ぶ…説明文では「はじめ・なか・おわり」、物語文では「前話・中話(クライマックス)・後話」の構成を捉えて読む。

(2) 音読をする……ねらいに応じた音読をする。

(3) 視写をする……内容理解を深めたり、作品の構造などに気付いたりするために視写をする。

(4) 一人読みをする…文章にじっくりと向き合い、学習課題に対して自分の考えをもつ。

(5) 話し合う……ペア・少人数グループ・全体など目的に合った形態でテーマを明確にして話し合う。

(6) 一人学びをする…一人学びの手引きを基に、文章を読む。

(7) ノート作り……書くことで学習課題に対する自分の思いや考えを明らかにする。

学習してわかったことや考えが深まったこと等を国語日記として書く。

5 学び合いを確かにする評価活動

・子どもの自己評価と相互評価 ・教師の評価

6 年間指導計画

「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」についての年間指導計画。

【柱2】言語の基礎的・基本的な知識・技能の向上

- (1) 全校朝読書・読み聞かせ
- (2) 朝の音読・詩の暗唱
- (3) チャレンジタイム
- (4) 音読・読書カード
- (5) 国語辞典・漢字辞典の日常化(3年生以上)
- (6) 基礎・基本の時間
- (7) 漢字検定(2年生以上)
- (8) 家庭学習の習慣化

【柱3】興味・関心を高める国語環境の充実

- いろは坂
- 熟語くん
- 古典にふれる
- 特別な読み方の漢字
- 体の慣用句
- 昔の月の言い方
- 十二支
- 敬語コーナー など

【柱1】子ども主体の学習をめざす単元学習による授業の展開

1. 本校で捉える単元学習とは

本校では、子どもがより主体的な学習を進めることができるような単元を組んで、日々の授業を展開する。教師は、まず子どもの実態を把握してから、国語科の目標に基づいて子どもに付けたい力を明確にし、そこを出発点とする。そして、その力にふさわしい言語活動は何か、その力を身に付けるためにふさわしい学習材は何かという視点で、単元構成を行う。

各単元の学習では、教師が導入段階で子どもにゴールを示すことで、子どもは、学習に対しての意欲をもち、ゴールまでの学習の見通しをもつことができるようにする。子どもは、自分の課題を明確にし、課題にそった言語活動を行い、主体的に学ぶ。主体的な学びを通して、学ぶ楽しさを知り、学ぶ意欲をもち続けることができる。

様々な単元学習の実践を積み重ねて国語科経営の重点「読解力・表現力を育てる」ことで、「自分の思いや考えを伝え合うことができる子」という国語科のめざす子ども像に迫り、より確かな学力を付けさせることができるものと考ええる。

＜単元を組むまでの流れ＞

- ①子どもの実態を把握する ②身に付けたい力を確認する ③表現様式を明らかにして言語活動を設定する
④学習材を選定する ⑤単元を構成する

	教師	子ども	
前学習	・単元の導入の前の学習での耕しが大事である。 ・柱2・3でも日常の指導を行っているが、この単元にかかわる指導も有効である。		並 行 読 書 ・ 多 読 へ
導入	・単元のゴールを示す。 (教師作成のモデルの提示) ・ねらいを達成するために学習の視点を明確にする。	・ゴールでの姿のイメージをもつ。 ・「何のために」「誰に」という目的意識及び相手意識、そして、「何を通して」「どのように」という学習の見通しをもつ。 → より主体的に学習に取り組むことができる。	
展開	・この学習材で、「何を学ばせ」「どのような力を付けるのか」を明確にして指導する。	・「何を」「何のために」読むのかを常に意識しながら主体的に学習に取り組む。 ・筆者の説明や考え、作品の主題、段落相互の関係や述べ方の工夫等を読み取っていく学習活動を行い、読みを深めていく。 ・見たり、聞いたり、調べたりしたことや、実際に経験したことから書くことを決め、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えて、語と語や文と文との続き方に注意しながら文章を書く。 ・場面の状況や情景を想像したことがはっきりと伝わるように、文章構成や表現方法を工夫しながら文章を書く。 → 言語活動を通して必要な読解力・思考力・表現力を習得する。	
終末	・「何のために」「誰に」「何について」「どのように」伝え合わせるのか明確にして指導する。 ・子どもに付けたい力が付いているか評価する。 ・伸びた力の自己認識をさせる。	・筆者の考え、作品の構成の仕方、言葉遣いなどを活用して、表現する。 ・相手を意識しながら、自分の思いや考えがわかるように伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりする。 ・互いの思いや考えを出し合うことで、多様な考えに触れる。 ・ゴールの姿 (付けたい力が付いている状態) ・「何を学んだか」「何ができるようになったのか」「どんな力が付いたのか」等を振り返る。	
活用	次へつなげる。 他教科とかかわる。 日常化する。 次の課題を見つけて、調べたくなる。 教師の設定したゴールを越えて、次のゴールを見つける。		

家庭学習へもつながる

家庭学習へもつながる

2. 単元を組むための視点

(1) 学習過程の明確化

子どもが主体的に学ぶための目的意識をもたせるために、導入の段階で単元のゴールを示す。ゴールの姿を知りゴールまでの学習過程を考えることで子どもは「何を」「何のために読むのか」というように、自らのゴールのために必要性をもって学習に取り組むことができる。そうすることで、学習材の内容や筆者の作品の構成の仕方、言葉の遣い方など、目的に応じて主体的に読み取っていくことができるようになる。そこで、本校では子どもたちの主体的な学習のために、ゴールと学習過程の提示を大切に扱っている。

ゴールの提示は学習過程の最初に行われるが、子どもの実態や学習歴、単元の構成などから、より子どもが主体的に学べるよう、子どもと一緒に学習計画を立てる等工夫して行う。

(2) 言語活動の種類や特徴の明確化

言語活動を設定するためには、子どもの実態を把握し、付けたい力に対してどのような言語活動が適切であるのかを見極めなければならない。学習指導要領には、各領域の内容に言語活動例が具体的に示されている。この例示を拠点とし、その言語活動の特徴は何か、扱おうとする学習材の特徴は何かを十分に教材研究し、子どもの実態に即して意欲的に行える言語活動を設定する。

(3) 系統性の重視

国語科では学習内容が螺旋的、反復的に進められていく。読んだり書いたり、話したり聞いたりすることは、どの学年でもあり、付けたい力は異なる。子どもに付けたい力を意識しながら指導していく。

(4) 伝統的な言語文化の重視

伝統的な言語文化に低学年から触れ、生涯にわたって親しむ態度の育成が重視されていることから、指導要領に「我が国の言語文化に関する指導の改善・充実」が位置付けられている。様々な時代に、文学をはじめ様々な言語文化があり、話し言葉、書き言葉それぞれにわたって様々な形態があるため、各領域においても言語文化に親しむ態度を育てていく。そのために、学年ごとに親しませたい言葉や文章表現を掲示し、国語環境の充実を図る。

(5) 読書活動の充実

子どもたちが主体的に本を選んだり、必要な情報を検索して読んだりして、文章に対する自分なりの考えが伝え合えるような読書をする子どもを育てるために、国語科の授業においても読書活動を積極的に取り入れていく。単元を組む中で、本校の図書室や絵本の部屋の本だけでなく、館山市立図書館からもテーマに合った本を取り寄せて環境を整えることで、子どもたちが主体的に並行読書をするよう仕向ける。

(6) 年間指導計画の作成

それぞれの単元においてどのような力を付けるかは、その単元だけで考えるのではなく、広い視野をもち、年間指導計画で1年間の見通しをもって行っていく。それを活用することで各学年相互の関連を図り、系統的、発展的な指導が行えるものとする。

今年度の重点

今年度は、本校研究の重点として「つなげて聞く・つなげて話す」、「個別最適化の学びと協働的な学びの一体的な充実」を設定している。

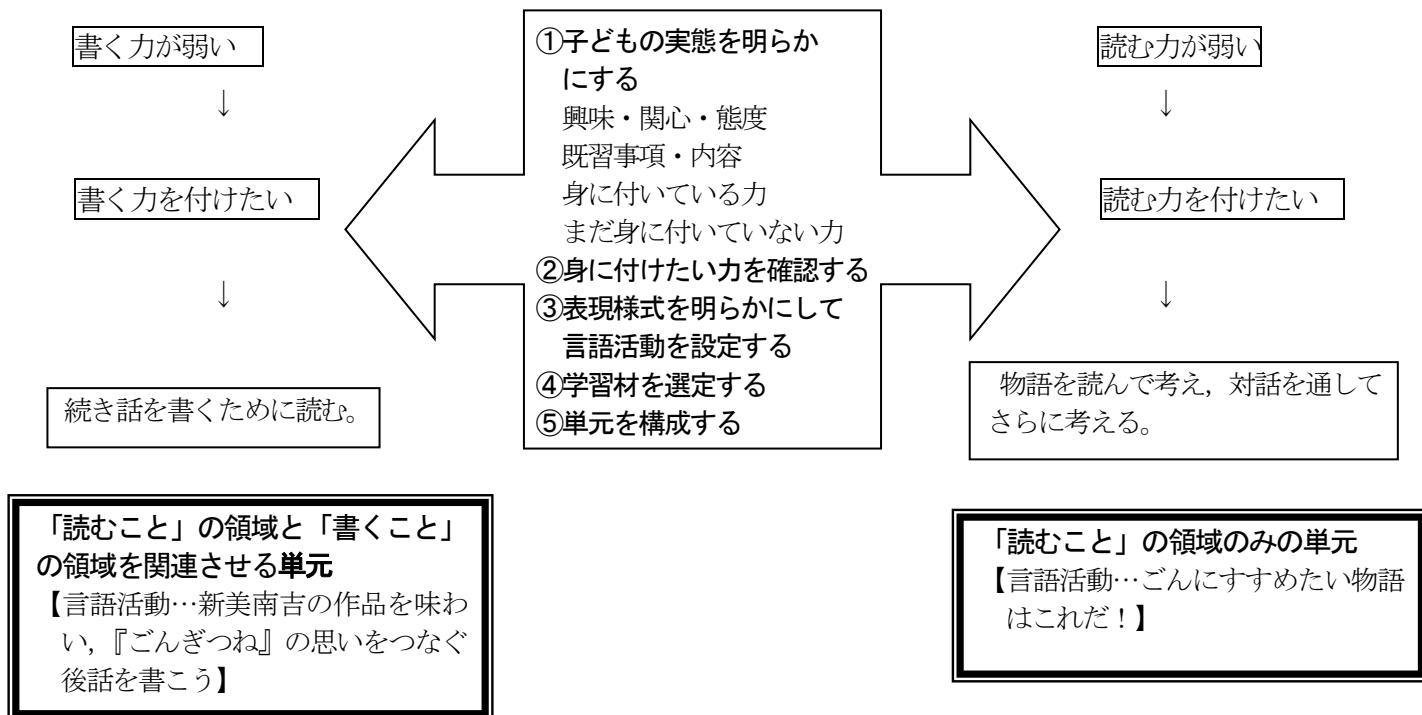
その中でも本部会では、昨年度同様に「個別最適化の学びと協働的な学びの一体的な充実」の実現を重視した。「個別最適化の学び」を実現するためには、「学習の個性化」・「指導の個別化」の両方を充実させることが大切である。子ども一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じ指導方法や教材を提供した。その他に、個々の興味・関心に応じた目標に向けて、情報を広く収集・分析するために、教科書以外のパンフレットや関連する本などの資料を取り寄せ、学習に生かせるようにした。また、単元の中で子どもが自らの学びを選択できる機会を設けた。例えばタブレットを活用し学習を進めるのか、手書きで学習を進めるのか、自分の学びにあったものを選択できるようにした。

「協働的な学び」についても単元の中で、友達との意見交流場面を取り入れることを意識してきた。ただ、交流させるのではなく、カンファレンス（ルールをもとにペアで質問と答えを繰り返し、思考していくことで考えを集約していく）や3人対話（ルールをもとに3人が順番に語り、黙考することを繰り返し行い、最後はフリートークで、自分の考えを深めたり、広げたりしていく）などの手法を用い、自分の思いを伝えたり、友達の思いや考えを聞いたりして、自分とは異なる考え方に触れながら、学びを深めていけるようにした。また、対話を中心とした授業展開も行った。その中で、友達の考えを聞き、意見を繋げて言ったり、自分と友達の考えを比べながら新たな考えを生み出したりした。そのような手立ての中で、本校研究の重点の「つなげて聞く・つなげて話す」という部分にも繋がっていくのではないかと考えた。以上のことを実践していきながら、国語科のめざす子ども像に近づけていった。

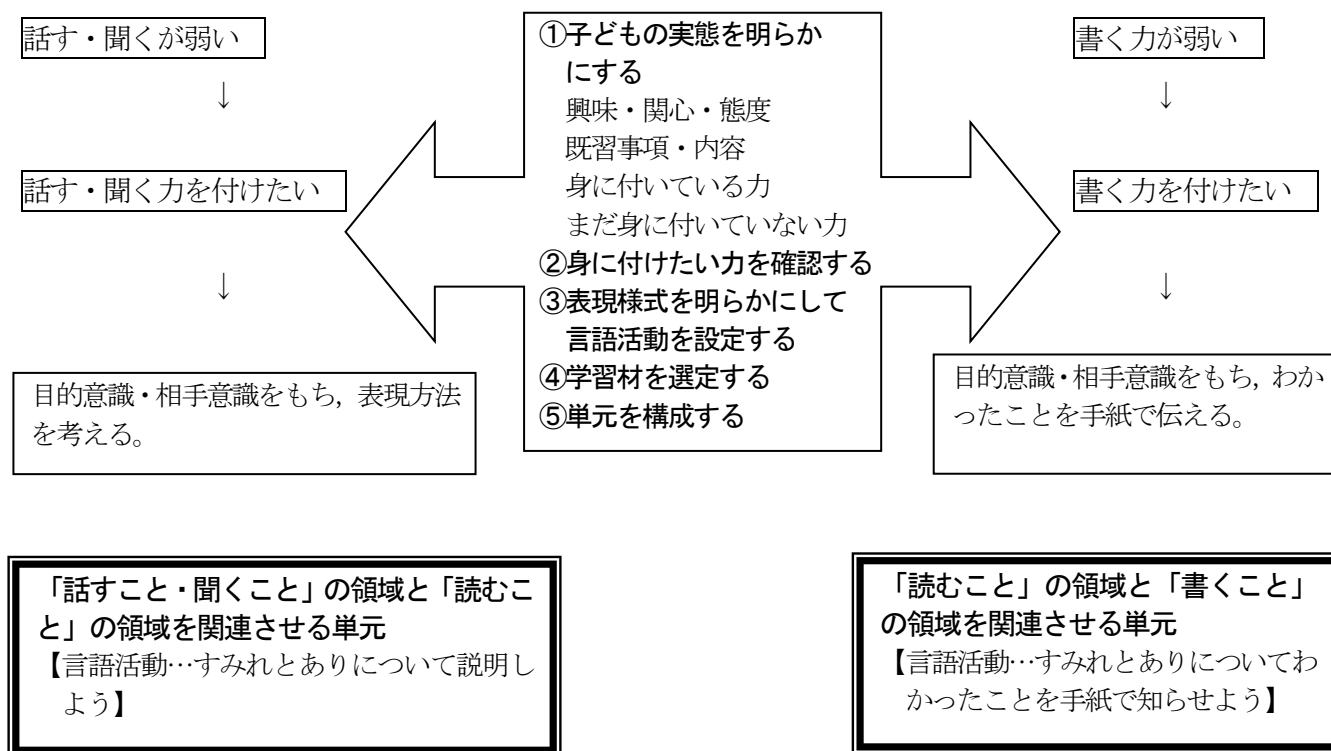
3. 子どもの実態・付けたい力によって変わる単元構成の例

☆同じ学習材でも、子どもの実態によって付けたい力が異なると、単元の構成の仕方は様々に変化する。

【実践例1】 4年 学習材 『ごんぎつね』を使った単元構成の例



【実践例2】 2年 学習材 『すみれとあり』を使った単元構成の例



4. 国語学習における主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

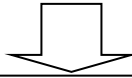
〔思考力、判断力、表現力等〕の内容

(1) 「読むこと」の領域に重点をおいた、主体的な学びの実現に向けた取組

国語学習で捉える主体的な学びとは、子どもたちが学習課題に対して目的や必要性を感じながら学びに取り組む姿だと考える。そして、以下の4つの姿が見られたとき、主体的に学ぶことができたとして捉えている。

【主体的に学ぶ子どもの姿】

- ①子ども自身が、課題を理解して、読む楽しさを感じながら学習する様子
- ②既習や読書経験を生かし、文章を関連付けて読んだり、友達と共有したりする様子
- ③課題をもって読み進めた活動を振り返り、次の読書や学習につなげている様子
- ④意味のわからない言葉を辞典を使って調べるなど、粘り強く学習に向かう様子



【主体的な学びの実現に向けた取組】

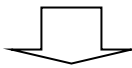
- ①学習の見通しをもち、文章の構成を学び、文章の要旨や「作品の心」※1を考える
- ②「比べ読み」※2や「重ね読み」※3をし、関連付けたり、様々な対話をしたりして、粘り強く課題に取り組んだりする
- ③既習や読書経験を生かし、作者やシリーズ・テーマで読書をし、多読につなげる

(2) 「読むこと」の領域に重点をおいた、対話的な学びの実現に向けた取組

国語学習における対話的な学びとは、子ども同士の対話活動を中心に、文章の要旨や「作品の心」を基にして、自分と友だちとの考えを比べたり、自分の考えを再考したりすることであると考える。その際、話し合うだけが対話の姿ではなく、自分なりの表現方法（例えば文字言語等）で表したことについて自己内対話をし、考えを深めたり、広げたりしていくことも大切であると捉えている。従って、めざす子どもの姿及び取組について以下のように示す。

【対話的に学ぶ子どもの姿】

- ①文章の要旨や「作品の心」をもとに、友だち同士又は自己内対話※4をしている様子
- ②多様な表現方法で、考えを伝え合い、繰り返し思考する様子



【対話的な学びの実現に向けた取組】

- ①「カンファレンス」※5や「3人対話」※6等の手法をもとに、学年の実態に応じて対話する
- ②相手との共通点や相違点を理解して繰り返し思考し、考えを深めたり広げたりする

※1 「作品の心」：文学的文章（物語）が、読者である自分に最も強く語りかけてくること。

※2 「比べ読み」：2つの文章を共通点や相違点、表現方法等、様々な視点で比べて読むこと。

※3 「重ね読み」：複数の文章の要旨や「作品の心」を関連付けて読むこと。

※4 「自己内対話」：ある課題をもとに、自分自身で考え自問自答すること。

※5 「カンファレンス」：ルールをもとにペアで質問と答えを繰り返し、思考していくことで考えを集約していく対話の手法の一つ。

※6 「3人対話」：ルールをもとに3人が順番に語り、黙考することを繰り返し行い、最後はフリートークで、自分の考えを深めたり、広げたりしていく対話の手法の一つ。

「作品の心」について

本校では、文学的文章（物語）を読んだ際に、その作品が読み手に最も強く語りかけてくるメッセージを「作品の心」として捉えている。メッセージの受け取り方や感じ方は人それぞれであり、年齢やその時の生活環境、気持ちで変わっていくものであるため、その都度、真剣に文学的文章（物語）を読むことが大切である。自分なりに読んで感じたメッセージを「作品の心」として捉え、自分の言葉で表現していくことが文学的文章（物語）を読む目的であるとする。

（３）「読むこと」の領域における、深い学びの実現に向けた取組

「読むこと」領域における、深い学びの実現に向けてめざす子どもの姿及び取組について以下のように示す。

【深く学ぶ子どもの姿】

- ①学習内容を既習と関連付けながら振り返りを行い、より理解を深めている様子
- ②学習を通して自分に身に付いた力について理解したり、生活に生かしたりしている様子
- ③子ども自身が学習内容を基に新たな課題等を見出し、解決していく様子



【深い学びの実現に向けた取組】

- ①国語日記を基に学習の振り返りを行い、学習内容を既習や他教科と関連づけたり、自分の考えを言葉や文章で表現したりする。
- ②自分なりの問い（課題）をもって、新たに思考したり対話したりしながら読む。
- ③作品の心を伝え合う活動を通して、受け取り方は一人一人異なると理解する。

（４）「書くこと」の領域における、主体的な学びの実現に向けた取組

「書くこと」の領域における、主体的な学びの実現に向けてめざす子どもの姿及び取組について以下のように示す。

【主体的に学ぶ子どもの姿】

- ①題材の設定及び必要な情報の収集をして、知識や経験と照らし合わせ整理し、伝えたいことを明確にして書く様子
- ②既習をもとに文章の構成を検討しながら、書き表し方を工夫している様子
- ③子ども自身が、文や文章を整えたり、内容や表現の良いところを見つけたりする様子



【主体的な学びの実現に向けた取組】

- ①日記や手紙を始め、報告文や意見文等※₁の文の書き方を学び、目的意識や相手意識をもって、既習の語彙を用いて様々な表現方法で伝えたいことを明確にして書く。
- ②要約や割り付け等※₂を学び、書き表し方※₃を工夫する。
- ③互いの文を読み合い、文や文章を整えたり、感想を交流したりし、友だちや自分のよいところについて考える。

※₁ 「日記」「手紙」「報告文」「意見文」「観察文」「物語文（続き話・ファンタジー等）」「案内文」「お礼文」「詩」「短歌・俳句」「随筆」「推薦文」「記録文」 他

※₂ 「要約」「割り付け」「引用」「図表・グラフ」 他

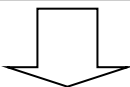
※₃ 「比喩」「擬人法」「倒置法」「体言止め」「オノマトペ」 他

（５）「書くこと」の領域における、対話的な学びの実現に向けた取組

「書くこと」の領域における、対話的な学びの実現に向けてめざす子どもの姿及び取組について以下のように示す。

【対話的に学ぶ子どもの姿】

- ①自分の伝えたいことを表した文章をもとに、友だち同士又は自己内対話をしている様子
- ②多様な文章表現で、考えを伝え合い、繰り返し思考する様子



【対話的な学びの実現に向けた取組】

- ①「カンファレンス」や「３人対話」等の手法をもとに、系統的に対話する。
- ②対話を通して、自分なりに文や文章を整え、繰り返し思考し、考えを深めたり、広げたりする。

(6)「書くこと」の領域における、深い学びの実現に向けた取組

「書くこと」領域における、深い学びの実現に向けてめざす子どもの姿及び取組について以下のように示す。

【深く学ぶ子どもの姿】

- ①学習内容を既習と関連づけながら振り返りを行い、より理解を深めている様子
- ②学習を通して自分に身に付いた力について、理解している様子
- ③子ども自身が学習内容を基に新たな課題等を見出し、解決していく様子



【深い学びの実現に向けた取組】

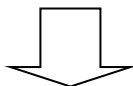
- ①自分に身に付いた力について理解するために、国語日記を基に学習の振り返りを行う。
- ②学習内容を精査して、自分の考えを言葉や文章で表現する。
- ③目的や意図に応じて、様々な表現方法で自分の考えが伝わるよう書き表し方を工夫する。

(7)「話すこと・聞くこと」の領域における、主体的な学びの実現に向けた取組

「話すこと・聞くこと」領域における、主体的な学びの実現に向けてめざす子どもの姿及び取組について以下のように示す。

【主体的に学ぶ子どもの姿】

- ①言葉を通じて積極的に人と関わり、相手に伝わるように話をする様子
- ②相手が知らせたいことや自分が聞きたいことを集中して聞き、話の内容をとらえて感想をもつ様子



【主体的な学びの実現に向けた取組】

- ①話す事柄の順序や構成を考え、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さを工夫して話す。
- ②話を聞く視点を明確にし、意識して聞く。

(8)「話すこと・聞くこと」の領域における、対話的な学びの実現に向けた取組

「話すこと・聞くこと」領域における、対話的な学びの実現に向けてめざす子どもの姿及び取組について以下のように示す。

【対話的に学ぶ子どもの姿】

- ①互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐ様子
- ②尋ねたり応答したりして、少人数で話し合う様子



【対話的な学びの実現に向けた取組】

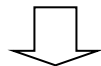
- ①話の内容を理解して、相手の発言に関連した発言をすることで話をつなぎ、感想をもつ。
- ②互いに認め合う雰囲気を大切に、聞き手の反応を見ながらわからないことを質問したり応答したりする。

(9)「話すこと・聞くこと」の領域における、深い学びの実現に向けた取組

「話すこと・聞くこと」領域における、深い学びの実現に向けてめざす子どもの姿及び取組について以下のように示す。

【深く学ぶ子どもの姿】

- ①学習内容を既習と関連付けながら振り返りを行い、より理解を深めている様子
- ②自分の考えを述べたり、友達の考えを聞いたりして、繰り返し思考する様子



【深い学びの実現に向けた取組】

- ①自分に身に付いた力について理解するために、国語日記を基に学習の振り返りを行う。
②対話を通して様々な考えに触れ、それに対して思考し自分の考えをもつ。

(10) 学習課題について一人読みのノートに何を書かせるか

〈説明的文章〉

1 年	・問いと答えの文や言葉を書く。 ※必要な文や言葉だけを書く。 ・本文を視写する。
2 年	・事柄の順序（特徴，方法，作業の手順など）を読み取って書く。 ※必要な事柄だけを書き抜く。 ・時間の順序（時間の推移，行動・成長の変化など）を読み取って書く。 ※箇条書きで書き，矢印でつなげる。
3 年	・大段落（大部屋）の小見出しを考えて作る。 ・段落ごとに要点を見つけて書き抜く。 ※中心となる文を見つけ，その中で要点となる言葉を書き抜く。 字数制限も有効。 (方法，役割など)
4 年	・小見出しを考えて作る。（大段落ごと，または，小段落ごと） ・段落の役割を理解し，要点を見つけて書き抜く。 ※中心となる文を見つけ，その中で要点となる言葉を書き抜く。
5 年	・課題（問い）に対する結論を探し，要旨を短くまとめて書く。 ・結論の根拠となる事例を書き加える。 ※大切な言葉をつなぎ合わせ，要旨を短く書く。そこに，見やすく説明や事例を書き加える。
6 年	・課題や筆者の投げかけに対する論の展開（答えや方法が複数の場合もある）を読み取り，要旨を短くまとめて書く。 ・結論の根拠となる事例を書き加える。 ・筆者の立場と自分の考えとを比べて書く。 ※大切な言葉をつなぎ合わせ，要旨を短く書く。そこに，見やすく説明や事例を書き加える。 自分の考えも書く。

〈文学的文章〉

1 年	・学習課題に対応した答えを書く。 ☆その子なりの言葉で，思いや考えを書く。 ・登場人物の行動から気持ちを想像して「。」で書く。
2 年	・学習課題に対する答えとなる言葉（キーワード）を見つけて書く。 ☆キーワードーその言葉から登場人物の気持ちを想像する。 場面の様子を想像する。 ・登場人物の行動から，場面の様子や気持ちを想像して「。」で書く。
3 年	・学習課題に対する答えとなる言葉（キーワード）を見つけて書く。 ☆キーワードーその言葉から登場人物の気持ちの変化を想像する。
4 年	・キーワードから想像して，自分の考えを書く。 場面の移り変わりを想像する。

	・登場人物の性格や気持ちの変化を想像して「。」で書く。
5	・学習課題に対して自分の考えを述べるために、根拠となる言葉を探す。
・	☆キーワード←登場人物の相互関係や心情、場面についての描写などの優れた叙述を探す。
6	・本文から根拠を探し、自分の考えを書く。
年	・学習課題のまとめ
	・結論を書く。

(11) ノート作り

国語の学習を充実させるためには、本文の言葉を根拠に読み取りや話し合いをさせ、自分の考えを広げたり深めたりすることが大切である。そのために、学習課題に対する自分の思いや考えを、本文を根拠にしながらノートに書き込むことにより、わかったこと、わからないことを明らかにすることができる。

ノート作りを通して書くことへの抵抗感をなくす。

①ノートの基本的な使い方

1. 単元の初めには学習のとびら、学習材、作者・筆者を書く。

2. 学習課題を書く。

→

学習の目的を明確にする。

青い線で囲む

3. わかったことを書く。

→

・課題に沿って本文を読み、本文を根拠として
課題に対する自分の考えを書く。

一人読み

- ・自分でじっくりと文章に向かい合うことで言葉に敏感になる。
- ・自分なりの考えがもてる。
- ・わかったこと、わからないこと等が明確になり、話し合い学習に生かせる。

4. 国語日記を書く。

→

- ・学習してわかったこと、友達の発表を聞いて思ったこと、新たにわかったこと、考えが深まったことなどを書く。
- ・学習した内容が、既習や他教科と関連しているかどうか考えて書く。
- ・新たな問い（課題）やその解決方法について書く。

②各学年のノート

※学年の子どもの実態に応じて変更する場合あり

1年	10マスリーダー入り 12マスリーダー入り	4年	15マスリーダー入り 18マスリーダー入り
2年	12マスリーダー入り 15マスリーダー入り	5年	5mm方眼リーダー入り
3年	15マスリーダー入り	6年	5mm方眼リーダー入り

館山小の「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」「話し合うこと」の基礎基本

	読むこと（説明的文章）	読むこと（文学的文章）	書くこと（情報伝達）
1年生	- 文章の大まかな内容を読み取る。 はじめ・なか・おわり - 文意識をもつ。句読点・主語・述語 - 段落に分ける。形式段落 「問い」と「答え」の関係を読んだり、文章を比較して読んだりする。 文末表現（問いの文、答えの文） - 時間の順序や事柄の順序を考えながら読む。 - 説明されている事柄を叙述に結びつけて読む。	- 登場人物，中心人物が出てきて，どんなことをしたか，またどんな出来事があったかを捉える。 登場人物・中心人物 - 人物の気持ちを想像して読む。 - 場面の様子を，想像をふくらませながら読む。 - 場面の移り変わりや事柄などの順序を捉える。	知らせたいことをまとめて簡単に書く。
2年生			自分の考えが明確になるように，簡単な組み立てを考えて書く。
3年生	- 叙述に即して内容を読み取る。 - 中心の語や文を捉え，要点をまとめて要約をする。要点・要約 - 段落相互の関係を考え，文章の中心的事柄を読み取る。接続語 指示語・意味段落・文章構成図 - 文章の展開の筋道をおさえ，文全体の構造をとらえる。（大部屋） 序論・本論・結論	- 人物の性格や場面の情景を文脈から想像しながら読む。 - 作品の構造を捉える。 前話・中話（クライマックス）・後話 - 人物の気持ちの変化や場面の移り変わりを想像しながら読む。 - 前後の関係（文脈）をおさえて，人物のしたことや言ったことのわけを考える。	必要な材料を選び，整理して書く。
4年生			相手や目的に応じて，必要な情報を集めたり，選択したりして書く。
5年生	- 目的や意図に応じて，文章の内容をおさえながら要旨を捉える。 要旨 - 筆者の論の展開方法や主張の述べ方を，文章を的確に読みながら明らかにする。	- 描写や表現の工夫をおさえて，人物の内容や行動の変化をとらえる。 心理描写・情景描写・比喻・反復 - 人物の行動やことばを，他の人物や場面（状況）との関係で捉え，その意味を考える。 - 物語の発端から最後まで展開を捉え，「作品の心」を考える。 作品の心 - 主題を交流することで自分の考えを広げたり深めたりする。	必要な情報を，観点ごとに整理して書く。
6年生	事例（大部屋・中部屋・小部屋） - 事実と筆者の感想や意見の関係を考えながら読む。 - 筆者の主張を捉え，自分の立場から根拠を明確にして批評する。		根拠となる事象と感想，意見などを区別して書く。

	話すこと・聞くこと	話し合うこと	対話
1年生	- 経験したことの順序をたどって話す。 - 大事なことを落とさずに最後まで聞く。	身近な事柄について話し合う。	自分の考えをペアやみんなの前で話す。
2年生	- 知らせたいことを選び，整理して話す。 - 事柄の順序をおさえ，大事なことを落とさずに聞く。	身近な話題（共有できる内容）を中心に話し合う。	文章の好きなところや気に入ったところをお話する。
3年生	- 伝えたいことを選び，話の中心をはっきりさせて話す。 - 話の中心を考えて聞き，感想をもつ。	自分の考えをはっきりさせて話し合う。	自分の考えと友だちの考えを比べながら話したり，聞いたりする。
4年生	- 自分の考えがわかるよう，筋道を立てて話す。 - 話の中心や要点を聞き取り，感想をまとめる。	考えの相違や共通点を考え，話し合う。	互いの考えが，関連し合い，広がっていくよう話し合う。
5年生	- 自分の考えや意図がわかるように，話の組み立てを工夫して話す。 - 話し手の意図を理解し，自分の感想や意見をもつ。	自分の考えや意図をはっきりさせて話し合う。	自分と友だちの考えを共感的又は批判的に聞く。
6年生	- 目的や場に応じた，適切な言葉遣いで話す。 - 事象と感想や意見とを聞き分け，話の内容について意見をまとめる。	互いを尊重しながら計画的に話し合い，考えをまとめる。	繰り返し思考することを通して，自分の考えをより確かなものにする。

国語科における「一人学び」とは

文学的文章及び説明的文章において、文章にじっくりと向き合い、自分なりの考えをもつこと。

〔下学年用〕

説明的文章（説明文）一人学びの手引き
氏名（ ）

- ① 形式段落に番号をふる。
- ② 三つの大部屋に分ける。線で区切る。
はじめ
なか
おわり
- ③ はじめの大部屋とおわりの大部屋の性格を考える。

はじめの性格	おわりの性格
・ 話題の提示	・ おわりのまとめ
・ 問いの投げかけ	・ 問いの答え
・ はじめのまとめ	・ 筆者の考え・読者へのメッセージ
- ④ なかを内容でいくつかの小部屋に分ける。
- ⑤ なかに小見出しをつける。
- ⑥ 筆者が言いたいことをノートにまとめる。
- ⑦ 文章表現の特徴。ほかの作品と比べて、こういう書き方をしている。こういう書き表し方が多い。

文学的文章（物語）一人学びの手引き
氏名（ ）

- ① 登場人物を書きぬく。
- ② 中心人物は、だれか。
- ③ いつ、どこで、どんなことが起きたか。

前話	(時・場・人)
中話	(できごと)の始まり
後話	(できごと)のその後
- ⑤ 物語の初めと終わりでは、何がどう変わったか。
- ⑥ クライマックス（物語の山場）は、どこか。そこで、どんなできごとが起こったか。大きく変わったことは何か。
- ⑦ 文章表現の特徴。ほかの作品と比べて、こういう書き方をしている。こういう書き表し方が多い。

〔上学年用〕

説明的文章（説明文）一人学びの手引き
氏名（ ）

- ① わからない言葉は、意味調べをする。
国語辞典の調べた言葉のところに、ふせん紙をはる。
- ② 三つの大部屋に分ける。線で区切る。
はじめ (序論)
なか (本論)
おわり (結論)
- ③ はじめの大部屋とおわりの大部屋の性格を考える。

はじめの性格	おわりの性格
・ 話題の提示	・ おわりのまとめ
・ 問いの投げかけ	・ 問いの答え
・ はじめのまとめ	・ 筆者の考え・読者へのメッセージ
- ④ なかを内容でいくつかの小部屋に分ける。
- ⑤ なかに小見出しをつける。
- ⑥ 事実と筆者の意見を区別する。
事実には波線、筆者の意見に実線を引く。
- ⑦ 要旨をノートにまとめる。（筆者が強く言いたいこと）
- ⑧ 文章表現の特徴をノートに書く。
他の作品と比べて、こういう書き方をしている。こういう書き表し方が多い。

文学的文章（物語）一人学びの手引き
氏名（ ）

- ① わからない言葉は、意味調べをする。
国語辞典の調べた言葉のところに、ふせん紙をはる。
- ② 登場人物を書き抜く。
- ③ 中心人物は、だれか。
- ④ いつ、どこで、どんなことが起きたか。
前話 (状況設定・登場人物)
中話 (出来事の始まり・クライマックス)
後話 (出来事のその後)
- ⑤ 物語の初めと終わりでは、何がどう変わったか。
- ⑥ クライマックス（物語の山場）は、どこか。そこで、どんなできごとが起こったか。大きく変わったことは何か。
- ⑦ 文章表現の特徴。
他の作品と比べて、こういう書き方をしている。こういう書き表し方が多い。
- ⑧ 物語の図をかく。
人物の関係図
心がどちらに傾いているのか、心情変化を折れ線グラフに表す。

5 学び合いを確かにする評価活動

学習を支える評価

単元の最後だけでなく、学習過程を通して継続的に行っていく。

子どもの評価

①自己評価活動

学び方⇒自分の考えと判断に基づく学習活動が、できていること。
良さの表れ⇒前の自分と比べ、進歩が自覚されること。
学習意欲⇒問題の発見、問題解決への努力点を理解する。目標の実現状況等に対する満足感・達成感がもてる。

②相互評価活動

学び合い⇒友達のよいところ探し。教え合い。他人を意識し、他人の考えに興味をもつことができる。
より良い人間関係作り⇒認め合い。励まし合い。その場での生きた会話。

次の学習につなげられるようにする。

教師の評価

- ・進歩の状況の評価
- ・良い点や可能性の評価
- ・個人や集団の肯定的な評価
- ・子どもの評価活動に対する評価

- ・つまずきのある子への支援へ生かす。
- ・指導の改善を図る。

本校における具体的評価

「読むこと」領域における評価

○受け身的に読むのではなく、目的を明確にもち、その目的に応じて資料を選択し読み取る力を育成し、評価する。

- ・読み取りノート（一人読み）
- ・座席表を用いて、子ども一人一人の読み取り状況や考え方を把握する。
- ・振り返り（国語日記等）…単元または毎時の学習の終末に、その学習を振り返り、わかったことや感じたこと、思ったことなどを自分の言葉でノートに書かせる。

「書くこと」領域における評価

○誤字・脱字・仮名遣いなどの表記、主語・述語・修飾語被修飾語などの文、段落と段落、全体の組み立てができる力を育成し、評価する。

- ・自分自身で評価する。
- ・隣り同士やグループで評価し合う。（鑑賞・交流）
- ・学級全体で作品を評価し合う。（鑑賞・交流）

「話すこと・聞くこと」領域における評価

○「発音・発声に関わること」「話す速さ」「態度」の他、目的・話の内容・構成・新たな考え・日常生活に生かす場での評価も大切。

- ・メモ（スピーチメモ、ワークシート、etc）
- ・聞き取りカード
（各学年の目標に照らし合わせて、評価の観点を具体的に示す。【聞く観点・話す観点】）
- ・振り返りカード

【柱 2】言語の基礎的・基本的な知識・技能の向上

国語の日常的な実践 ～言語事項の確実な定着を図るために～

（１）全校朝読書・読み聞かせ

①朝の全校読書タイム（チャレンジタイムの中で）

【目 的】読書習慣を身に付ける。集中力を高め、学習に向かう姿勢づくりをする。

【実施時間】毎週月曜日 8：15～8：25

【実施内容】

- ・8：15になったら、本を読む。
- ・一人一冊の本を読む。
- ・席について、だまって一人で読む。
- ・読み聞かせを聞くこともある。

②読み聞かせ活動を推進

【目 的】様々な本に出合わせ、本の世界を広げるとともに交流の場とする。

【実施時間と内容】

- ・教師から子どもへ → 担任が決めた読み聞かせの日や授業の中で担任が実践
- ・子どもから子どもへ → 図書委員会の子どもが読み聞かせ（10月のみ）

③図書環境の充実

- ・図書室、絵本の部屋の整備（図書担当及び全職員・図書委員会）
- ・図書の整理（PTAボランティア・図書委員会）
- ・市の図書館や移動図書館「わかしお号」の積極的な利用
- ・図書委員や教師によるおすすめの本の紹介

（２）朝の音読・詩の暗唱

【目 的】読む楽しさを感じさせ、学習に向かう姿勢づくりをする。

【実施時間】朝の会の中で行う。

【実施内容】各学年で音読集を購入して行う。

（３）チャレンジタイム

【目 的】各学年に応じた国語の基礎的な言語事項を身に付ける。

【実施時間】火・木曜日の朝自習の時間帯に行う。

【実施内容】

- ・視写
- ・チャレンジプリント
- ①全てのチャレンジプリントをファイルに綴じ込む。
- ②順番通りでなくても、学習の進度に合わせて使っていく。
- ③国語科の時間に実施しても良い。
- ④チャレンジタイムの10分で問題が終わらない場合は、途中で中断するなど、各学級で臨機応変に対応する。
- ⑤できるだけ繰り返して何度も行う。

◇プリントの内容

＜言葉遣いに関する内容＞

ていねいな言い方（常体と敬体） いろいろな文末表現（命令・推量・断定等）
敬語

＜文字に関する内容＞

漢字の成り立ち 片仮名を書こう ローマ字を書こう

＜表記に関する内容＞

撥音（はねる音） 長音（のばす音） 促音（つまる音） 拗音（ねじれる音）
助詞の使い方（わ・は）（え・へ）（お・を） 平仮名表記（じち・ずづ等）
送り仮名・仮名遣い 「」・句読点と符号 同訓、同音文字・音と訓
漢字の形と音・意味 特別な読み方の漢字

＜語句に関する内容＞

音や様子を表す言葉（形容詞） 動きを表す言葉（動詞）
気持ちを表す言葉 名前言葉（名詞） くわしくする言葉（修飾語）
かざり言葉（副詞） 慣用句 国語辞典・漢字辞典 ことわざ
意味の似た言葉集め 反対の意味・対語 言葉の意味を表す
言葉の組み合わせ 熟語 漢語・和語・外来語

＜文及び文の構成に関する内容＞

「だれが」を表す言葉 「いつ」を表す言葉 「どこで」を表す言葉
「なにを」を表す言葉 5 Wの文型 文の中の主語と述語
指示語（こそあど言葉） 接続詞（つなぎ言葉） 助詞の使い方
文の組み立て 文のねじれをなくす 名詞・動詞・形容詞・形容動詞
単文・重文・複文 接頭語・接尾語・擬態語・擬音語

（４）音読・読書カード

- 【目的】 ・読むことに慣れさせ、学習材がすらすら読めるようにする。
・学習内容によって、音読の視点を与えて考えながら読ませる。
・自分の読んだ本を記録して、充足感を味わわせる。
- 【実施内容】 ・各学年の発達段階に応じて作成し、カードは一年間積み重ねていく。
・家庭では保護者に聞いてもらい、聞いた印またはサインをもらう。

（５）国語辞典・漢字字典活用の日常化

- 【目的】 語彙を増やし、日常的に国語辞典や漢字字典を引く習慣を付ける。
- 【実施時間】 授業など
- 【実施内容】 個々がわからない言葉があった時に引く。

（６）漢字検定

- 【目的】 競技を通じて漢字力の向上を図る。
- 【実施対象】 2 学年以上全員
- 【実施時期】 10 月の年 1 回実施
- 【実施内容】 各学年で問題をつくり実施する。問題は、書きや読みだけでなく、書き順や部首なども入れて作成する。
- 【競技概要】 競技時間は 15 分間。どこから解いても良い。
- 【採点表彰】 各自の得点の告知を行う。

（７）家庭学習の習慣化

- 【目的】 「家庭学習のすすめ」（研究紀要参照）をもとに、家庭学習の習慣化を図る。
- 【実施時間】 年間通じて家庭で実施
- 【実施内容】 音読、一人学び、漢字練習など（各学年の「家庭学習のすすめ」参照）

【柱3】興味・関心を高める国語環境の充実

～伝統的な言語文化にふれよう～

いろは坂（A棟東階段）
いろは歌を自然と覚えらる。



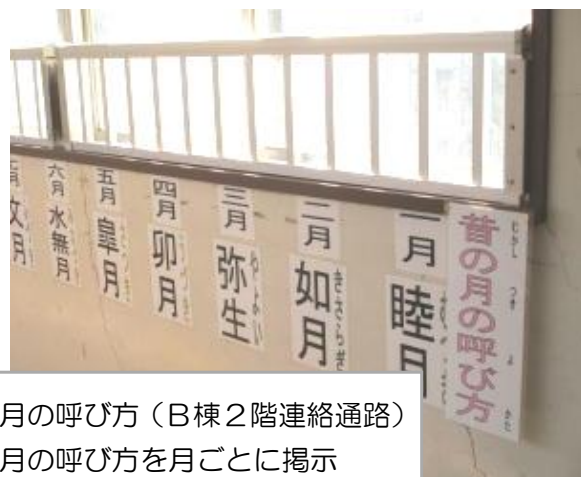
熟語くん（3～6学年）
サイコロの文字を組み合わせて熟語を作る。

熟語くん（A棟図書室前廊下，B棟3階連絡通路）
小学校で学習する特別な読み方をする漢字を掲示



「古典にふれる」（B棟3階連絡通路）↑
年表と対応させ、古典の冒頭を掲示

体の慣用句（B棟2階連絡通路）
同じ体の部分を使った慣用句を掲示



昔の月の呼び方（B棟2階連絡通路）
昔の月の呼び方を月ごとに掲示



十二支（B棟2階連絡通路）
十二支を順に掲示



国語学習コーナー（B棟2階連絡通路）
国語学習の成果物を展示または掲示



天気・様子・気持ちを表す言葉（B棟2階連絡通路）



敬語コーナー（B棟3階連絡通路）
敬語の種類や生活場面における敬語の使い方を表示



二十四節気・俳句の季語（B棟2階連絡通路）
季節によって色を変えた用紙に二十四節気の名義と時期と意味を掲示
俳句の季語の掲示

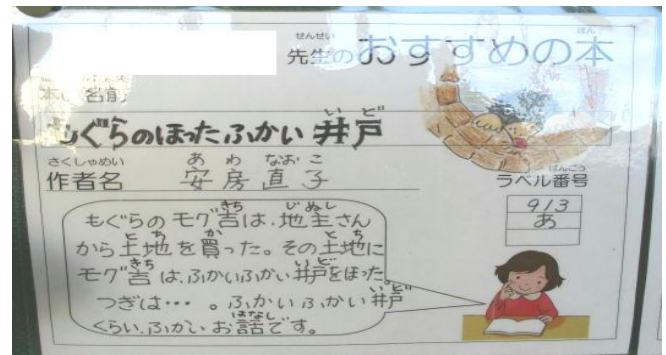
～読書環境の充実～



図書委員おすすめ本（A棟3階図書室前廊下）
図書委員がおすすめする本を絵と文章で紹介したもの
を掲示（定期的に作成している。）



先生方のおすすめ本（A棟3階図書室前廊下）
職員がおすすめする本を掲示



あつまれ ことばの森（B棟1階連絡通路）
子どもから反対言葉を募集して掲示



新着図書紹介コーナー（A棟3階図書室内）
新たに購入したものや寄贈された物を並べている。



読書の広場
学習に関する本などを校内や市立図書館から借り
て児童が手にとって読めるようにしている。

